

2006技能五輪& アビリンピックinかがわ

香川県立丸亀高等技術学校 建築技術科 亀山 啓司
中国ポリテクカレッジ 生産機械システム技術科 亀山 寛司
(中国職業能力開発大学校)

1. 技能五輪全国大会開催

第44回技能五輪全国大会が10月20日（金）～23日（月）までの4日間、第29回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）が27日（金）～29日（日）までの3日間にわたって香川県で開催されました。いずれも四国では初めての開催です。選手宣誓は香川県代表選手が「日々培ってきた技をいかに発揮するとともに、大会出場を契機に、今後もさらなる技能の向上に努めます」と誓いました。大会スローガンは、「未来へと 技のかけ橋 香川から」です。技能五輪全国大会には、新規実施の製造チームチャレンジおよびウェブデザイン職種を含む45職種に史上最多の23歳以下の青年技能者1158人が参加し香川県内など13会場で技能が競い合われました。アビリンピックは32職種に344人が競演いたしました。

また、ものづくりの魅力を知ってもらおうと、併催事業なども実施され、来場者を温かく迎え技能のすばらしさ・重要さをアピールし大いににぎわっていました。香川県出身の2人が取材いたしました。

2. 無料シャトルバス運行ルート

青年技能者が技を競い合うひたむきな姿をじっくり楽しめるよう、モデルコースが7コース選ばれました。①機械や車が動く仕組みに興味がある人。②パソコンを組み立てたりするのが好きな人。③おいしいものを作りたい人。④庭や家に興味がある人。⑤

ゲームが好きな人。⑥絵を描くのが好きな人。⑦ファッションに興味がある人。と興味のあるコースを高松市内11会場・43職種をうまく楽しめるように工夫されていました。また、技能五輪シャトルバス乗降場には、一目でわかるイメージキャラクターぎのちゃんマークと親切なスタッフの方が技能の交流の場を提供されていました。ぎのちゃん（図1）は、県花・県木「オリーブ」の実をモチーフとして明るく元気に頑張る姿をイメージしてデザインしています。



図1 めのちゃん（技能ちゃん）

3. ものづくり技能の発揮

青年技能者たちは、指導者や家族、来場者が見守るなか、時間配分に気を配りながら課題に取り組んでいました。素材から優れたものをつくりだす人、伝統の技を創り出す人、サービスを競う人など職種は違いますが、日々の磨かれた技能と技術を力強く披露していました。競技シーンを図2に数点セレクトしてみました。

4. 技能の尊重

大会推進に当たっては、4つの基本方針のもとに事業を展開されていました。①協調・協働と成果の継続、②技能の尊重、③最適な競技環境の提供、④にぎわいと交流 の4方針により、「ものづくり」の大切さや技能継承の重要性を伝えています。

各会場の入り口では、わかりやすい競技説明パンフレットなどが用意されていました。例えば小・中学生には、はがき大のなんでも質問箱と書かれた仕事の説明用紙（ひらがな付）が目を引きました。[理



機械製図

旋盤



造園

洋菓子製造

図2 競技シーン

容]：お客さまの髪形をつくり、個性を引き出して「きれいに、かっこよくなりたい」という願いを繊細な技でかなえてあげるんです。[自動車工]：車は人間にとって必需品。その車の点検・診断・修理をするお医者さんのことだよ。[情報ネットワーク施工]：髪の毛ほどの細い光ファイバをつないで高速インターネットや映像配信などのサービスをすぐに受けられるように配線をするテクニックを競います。などとイラストで説明しています。裏には、どんな仕事？ どうしたらなれる？ なって良かったって思うこと？ この仕事の将来の展望って？と、4つの質問とわかりやすい説明が書かれていました。

また、競技種目（機械系、金属系、建設・建築系、電子技術系、情報通信系、サービス・ファッション系）ごとにまとめた、主査の皆さまの顔写真入り競技種目別の小冊子は、競技のポイント、魅力、将来性を解説しており大会の熱意とエネルギー、働くことの大切さが伝わってきました。

競技スペースでは驚くべきスピード、技で課題に挑戦する青年技能者の姿（図3）は、ものづくりに興味ある来場者に大きな感銘を与えていました。課題は高度なものが多く、選手たちは持てる力を存分に発揮しなければ課題を終えることは難しく、体力的にも精神的にも厳しいものとなっています。課題を追求する過程で、技能の問題をはじめ、関連知識、精神力などバランスよく向上した多くの優れた青年

技能者の姿は、輝いていました。青年技能者を見据える指導者たちの視線には、力強いものを受けました。懸命な作業状況を一目見ようと、見学スペースいっぱいの来場者の熱い視線（図4）、シャッターチャンスをねらう姿、選手を派遣した企業の方が作業時間を計る姿も随所で見受けられました。

また、各会場には「競技の見どころ」、「職種の起源」、「実社会での使われ方」、「競技のポイント」、「選手たちのこんな所を見てください。」を説明したパネルを設置していました。これにより優れた技能と技術に触れ、ものづくりのすばらしさをアピールし、技能を尊重する気運と働くことの尊さがより高まる効果があると思いました。例えば、広告美術の「選手たちのこんな所を見てください。」の文を一部抜粋します。「未来へと技のかけ橋香川から」を強くビジュアルでアピールすることも広告美術の大きな使命である。瀬戸大橋をものづくりの象徴としてダイナミックに橋塔とケーブルのウェーブで強大な手前から小さな彼方へ、ストレートに進む梁は眼前か



図3 技の魅力（自動車板金）



図4 熱い視線（電気溶接）



図5 大会スローガンを課題に（広告美術）

ら針のような先方へシュートする様を表現した。更に色彩対比として、モノトーンの橋と海・虹色の空を描く。これはチャレンジ精神旺盛な青年技能者が夢に向かって技能五輪に情熱を傾ける姿である。今回の課題は、当地のビッグシンボルである海を越える巨大架け橋（図5）としていました。

5. 新規実施職種について

5.1 ウェブデザイン

ウェブデザイン競技では、競技課題テーマ「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会International Skills Festival for All in Japan 2007」のホームページ作成をし、ウェブデザインの技能を競いました。最後に各自、3分間でプレゼンテーションを行い、審査員、競技者、来場者にアイデアやコンセプトを説明いたしました。情報を発信する側の主張を聞き、新たな参加者同士の交流の場ができたのではないかと感じました。

5.2 製造チームチャレンジ

機械加工が得意な選手、電子回路製作がうまい選手、プログラム作成に堪能な選手の3人が力を合わせてゴールを目指しました。課題は自動制御の機械装置でした。選手同士で作業段取りの打ち合わせを行い、お互いに助け合って製品を完成させていきます。図6に示します。



図6 3人1チーム（製造チームチャレンジ）

6. 最多参加職種、建築大工

最多参加の117人が技能・技術を競いました。事前説明はありますが課題の勾配は、当日のくじによります。制作課題は、見学者、指導者に公開後、厳正な審査となります。総数は112作品でした。

今年の塔小屋組課題発表は8月10日、間髪を入れずに模範解答作成に挑んだ指導者、選手。両者ともに通常の仕事と、それぞれの強化育成の両立。メダル獲得を目指すも良し、技能尊重・伝承のスローガンも良し、個々・組織の目標はさまざまですが、この部門の必須能力は、1つは原寸図の図式解法的能力、そして木を加工する手技（図7）です。建築科指導員として実際に選手を指導して感じたことは、青年技能者はこの大会を通じて、確実に手技、課題に隠された理論を、身に付けます。どんな難問が生じて、原理に従い解決する能力が生まれるのです。四国で初めての開催により、この四国にノウハウが蓄積され、この大会の意義・大会へのチャレンジ精



図7 手技（建築大工）

神が芽生えた今、大会スローガンのとおり「未来へと 技のかけ橋 香川から」と成すことを、期待する1人です。短距離走としての香川大会は終了となりましたが、長距離走としてこの大会は永久に続くことでしょう。今大会の選手の方々が、後輩を指導し、見学された若い方々が技能の大切さを心から解することを望みます。

7. ものづくり分野教育機関の連携

併催事業として、技能フェスティバル、ものづくり学園フェスタ、伝統工芸品、飲食販売、物産販売など多くの方々にぎわっていました。ものづくり学園フェスタでは、職業能力開発大学校、高等技術学校、農業大学校、工業高等専門学校、工業高等学校、専門学校、高校の家庭学科などの、教職員、学生や生徒たちがものづくり分野のすばらしさを来場者に説明していました。また、医療福祉、看護学校、ものづくり関連の教育機関、地域の皆さまのボランティア等の協力も多かったと感じました。その他、各競技会場では「ものづくりの魅力」を知ってもらおうと、仕事内容を紹介するビデオ放映や、中高生を対象にした「仕事体験フェア」、ボランティアによる職業解説なども行われていました。

8. アビリンピック

ハンディキャップのレベルは個々の選手により異なりますが、就労に結びつく技能の研鑽に励まれている姿に深く頭が下がりました。また、併催事業として、サンサン祭り、障害者ワークフェアなどが開催されていました。図8に競技シーンを示します。



図8 写真撮影競技

9. 入賞メダルについて

香川らしさを出すため両大会の入賞メダル（図9）は、香川県漆器工業協同組合の協力を得て国指定の伝統工芸品である「香川漆器」を用い、香川県の独特の技法である「蒨醬（きんま）」で製作しています。「蒨醬」とは、竹や木の素材の上に黒漆、または朱漆を数十回塗り重ねた表面に、模様を彫刻刀で線彫りし、そのくぼみ面に色漆を填めて研ぎ出す方法です。香川県を代表する風景である「瀬戸大橋」と「屋島」、「オリーブ」を描いています。



図9 入賞メダル

10. 2007年ものづくりにこだわり、世界一を！

本全国大会は、来年11月に静岡県で開催される2007年ユニバーサル技能五輪国際大会（第39回技能五輪国際大会）への派遣選手選考会をかねています。国際大会は1970年の東京大会、1985年の大阪大会に次いで、22年ぶりに日本で開催されます。2年に一度（奇数年）開催されており、参加資格は、大会開催年に22歳以下であることとなっています。

自分の目で世界を身近に観れるチャンス、1人ひとりが、小さくてもいい、未来のために今できることを感じ、実践したいものです。

<参考資料>

第44回技能五輪全国大会冊子
2006技能五輪&アビリンピックinかがわ冊子
<http://www.pref.kagawa.jp/gorin/>